

本学事業への評価と期待を受けて

女性研究者養成システム改革推進本部長 富崎 松代

本学は、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」（23年度からは科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施）に採択されました。採択時には次のようなコメントがありました。

《本提案は、「女性研究者支援モデル育成」プログラムで培った優れた支援環境や高い女性研究者比率の実績を基に、更なる女性研究者の増加及び育成を目指す堅実な提案であり、実現性が高く評価できる。また、新規養成女性研究者に対する支援、養成及びスキルアップに係るシステムが優れているとともに、女性研究者の公募の際に推薦方式を加える等、候補者増への工夫も評価できる。今後、養成した優秀な女性研究者の学外への輩出だけでなく、定着・登用についても積極的な取組を行い、女子大としての特徴を踏まえ、挑戦的に課題を実施することを期待する。》

このような評価と期待のもと、本学は、女性人材育成機関としての伝統を基盤とし、学長のリーダーシップの下で男女共同参画推進に係わる全学的な組織を再構築し、次世代女性研究者養成拠点としての役割を果たすことを目的として、3つのシステム（若手研究者養成システム・研究スキルアップシステム・若手研究者サポートシステム）を開始しました。若手研究者養成システムの実績として、事業開始から本年度までに理学系5名（准教授1名、助教4名）と工学系2名（助教）を採用し、また、独自養成女性研究者1名（工学系助教）も決定しました。更に、平成25年度の採用計画に基づき、理学系2名（助教）の公募を行い、1名については平成25年4月1日付け採用を決定しました。女性教員比率は、平成24年3月末に、理学系21.0%、工学系28.6%、大学全体31.8%となり、平成25年3月末には、理学系21.5%、工学系33.3%、大学全体32.5%となる見込みです。

本学では、事業計画に基づいて採用された助教に対し3名～4名の教員からなるメンターチームを構成し指導助言を行っています。そして、各部局の評価委員会、全学組織の評価企画室を経由するPDCAサイクルに従って、メンターチームの評価を実施し、各助教がその研究活動を着実に進めていることや指導助言が適切に行われていること等を確認し、またサポートシステムの改善にも努めています。女性研究者に対する様々な支援の充実に向けて研究スキルアップシステムも推進しています。

優れた女性研究者の積極的な採用と、上に述べたようなシステムの推進により、大学全体としての教育研究活動は更に活発になっているように思います。平成24年度に実施された本事業の中間評価では、女性研究者の活動状況、女性教員比率の上昇、それらの波及効果等を報告しました。総合評価はAでした。本学が女性研究者養成機関として果たしてきた役割と実績に対する評価であると受けとめています。これからも気概と責任を持って女性研究者養成機関としての役割を果たす努力を続けていきたいと思っています。